

「コメディリリック第6回」「ラブラブチャレンジャー」

「諦め隊」

登場人物

白石

シロスコフ

齋藤

野彦

【L・明転】

※白石、齋藤、登場

白石 「齋藤、ほら、来い」

そわそわしている齋藤

白石 「ほら、居たぞ。あの人だろ？カフェ店

員のアンナさん」

齋藤 「うん」

「ほら、頑張れ」

白石 「やっぱり…」

「ここまで来て、何言ってるんだよ！」

齋藤 「でもさ…」

「つたく…しようがねえな…」

ぎこちなく店に向かって大声をあげる白石

白石 「す、す、すいませーん！アンナさん、

ちよつとこつち来てよー！」

アンナが来た感じ

白石 「…ちよつとこいつが話あるんで聞いて

もらってもいいですか？…齋藤」

齋藤 「アンナさん…僕はあなたのことを好き

になりました。なので…努力して努力し  
て…あなたのことを嫌いになりました」

客席に向かって語る白石

白石 「俺たちは「諦め隊」俺たちは恋をす

る。正確に言えば、どうせうまくいくは  
ずもないのに、恋をしてしまう」

齋藤 「なので、頑張つて頑張つて相手のこと

を嫌いになる。嫌いな点を必死に探す。  
そうやって恋を諦める」

二人 「それが俺たち「諦め隊」のやり方だ」

齋藤、アンナへ話す

齋藤 「確かに顔は可愛いです。でも可愛いっ

つたつて、こうモデルとかアイドルと  
かそういう商売になるようなレベルでは  
ありませんよ。もう少し顔が小さかった  
らね。ねー？その割には、アンナさんは  
自分のことをめちやくちや可愛いと思っ

てらっしゃる。態度や振る舞いで分かります。はい、ここ、嫌いです」

白石 「わかるわかるな」

齋藤 「駅の階段上る時とか、スカート抑えるじゃん！いや、そんな全員見ないから！俺は見るけど、全員が全員は見ないから！はい、ここ嫌いです」

白石 「自意識過剰！は、自信過剰！」

齋藤 「育ちが良さそうな所、良いなと思ってました。でも、ゴミの分別が雑でしょ？自分でも言われてわかるよね？瓶や缶も燃えるゴミで出しちゃったでしょ？一本くらいなら大丈夫だと思った？甘い甘いよー！はい、ここ嫌いです」

白石 「この人、燃えないゴミを燃やす女ですー！」

齋藤 「カーモン・ベイビー・アメリカかって恥ずかしげもなく言っちゃう」

白石 「ミーハーだな」

齋藤 「iphoneの画面がバキバキに割れる」

白石 「iphoneの画面が割れてる女はヤリマンです」

齋藤

「友達がインスタで病んでる女の悪口を話してる時が一番楽しそう」

白石 「自分の手を汚せよ！お前が一番性格悪いわ！」

齋藤 「アンナさん：僕は努力して努力して：あなたのことを嫌いになりました。僕と付き合あわないでください！」

白石 「…え、彼氏がいる？」

齋藤 「…：やった！やった！」

白石 「やったな！齋藤」

齋藤 「丁度良かった！嫌いになったから、彼氏がいて丁度よかったです！」

白石 「あ、もういいですよ」

齋藤 「本当にありがとう！さよなら！」

二人でアンナを見送る

白石 「よかったな！齋藤！」

齋藤 「おお！最高だよ！」

嬉し泣きする齋藤

白石 「よしよし。頑張った。頑張ったな！」

齋藤 「…ありがとう。次は白石、お前だな」

白石 「…うん」

※白石、齋藤、はける

2 ヒカリの職場・夜

※白石、齋藤、登場

齋藤 「白石、ほら、来い」

そわそわしている白石

齋藤 「あの子？本屋のヒカリちゃん？」

白石 「…そう」

齋藤 「ほら！頑張れ！」

白石 「…やっぱ今日はいいかな…」

齋藤 「何言ってるんだ！馬鹿！俺は頑張ったんだぞ」

白石 「でもさ…」

齋藤 「ヒカリちゃん！ちよつと顔貸してくれるー？」

白石 「馬鹿！」

齋藤 「あ、急にごめんねー。ちよつと、こいつから話があるからー。白石、かましてやれ！」

白石 「ヒカリちゃん…俺はきみのことを好きになりました。なので…努力して努力して…きみのことを嫌いになりました」

齋藤 「よーく聞けよ」

白石 「いつも、本屋さんで働く姿、可愛いです。すごく可愛い。でもさ、いつも、靴汚いよ。その靴、汚い。はい、ここ嫌いです」

齋藤 「汚い靴じゃ王子さまも拾わねーよ！はは！」

白石 「それとさ、元カレのツイッターずっと監視してるでしょ？監視だけならまだしも、裏垢でリップ送ってやり取りしてるでしょ？相当、キモイことしてるよ。はい、ここ嫌いです」

齋藤 「そんなキモイことする女と寄り戻すわけないじゃん！」

白石 「毎朝、自分がしたウンチに名前つけて泣きながら流してるのも知ってる。嫌いです」

齋藤 「どういうこと？母性の暴走なの？」

白石 「ツイッターで知り合った人を親友って言い張ってる所とか引く」

齋藤 「引きこもりじゃん！」

---

白石

「マスクつけたままエロいライブチャットして、チャホヤされてるのとかも知ってる」

齋藤

「教えてくださいよー？チャンネル登録しましょうか？」

白石

「悲劇のヒロイン気取りで自分が一番可哀そうって思ってるのとか知ってる」

齋藤

「悲劇のヒロインたーくさんいます！」

白石

「俺は努力して努力して…君のことを嫌いな…り…ました…。君のことを知りたくて…わかりたくて…俺は…キモくてごめんなさい…ヒカリちゃん、俺と付き合わないでください」

齋藤

「…え、ごめんなさい？」

白石

「え、ごめんなさい？…え、付き合いたい？…え、俺と？…いいの？…本当に？…ヒカリちゃん…ありがとう。ありがとう…。うん。これから、よろしくね」

齋藤

「おい…白石…」

白石

「齋藤…ごめん…俺、ヒカリちゃんと付き合うわ」

目を泳がせながら白石を突き飛ばす齋藤  
軽いいぎぎを聞こす二人

---

※白石、はける

【し・暗転】

—了—